

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300971		
法人名	有限会社 博愛会ケアサービスセンター		
事業所名	グループホーム テレサ苑		
所在地	〒038-3806 南津軽郡藤崎町大字林崎字宮本67番地1		
自己評価作成日	令和4年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○施設周辺はリンゴ畑に囲まれていて、四季を感じることができる。 ○町内会に加入している。町内の行事(神社草取り、総会)に参加し、町内の方々への施設理解に努めている。 ○協力医療機関(内科嘱託医、精神科)と連携し、体調の変化や精神面での変化に迅速に対応している。 ○施設長が日頃より、日勤帯及び夜勤帯での介護業務についているため、ケアのあり方等、日々検討しなければならない事について情報を共有できている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域のシンボルである山が望め、リンゴ畑や田園に囲まれた豊かな自然環境の中に立地されている。行政や町内会・地域のグループホームとの関係性も良好で、交流を図ったり、情報の共有もされ利用者へ反映されている。今夏、利用者・職員共に新型コロナウイルス感染症があり、行政からの指導のもと自粛を余儀なくされたが、認知症ケアの基本・事業所理念を忘れることなく、職員一丸となって乗り越えた経緯がある。施設長を中心として、利用者の「笑顔」と「自立支援」に向けた取り組みがされ、医療機関・訪問看護との連携もあり、利用者・職員共に安心して生活出来る体制が整備されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との密着性に重点をおいた理念を掲げ、正面玄関に掲示している。	事業所の玄関、ユニット内に掲示し、日々の支援の軸としている。迷ったときは理念に立ち返り、共通認識の上で実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入しており、町内の行事(神社の草取り、総会)に毎年参加している。施設の周辺にはリンゴ畑が広がり、収穫時期になるとリンゴをおすそわけしてもらっている。	今年の夏に事業所内でコロナ感染の経緯があり、地域との付き合いは自粛している。リンゴは今年もお裾分け頂いた。コロナが落ち着いたら町会との交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防のため会議は開催していないが、町内会長や民生委員に運営会議の資料をお渡しし、運営状況を確認してもらい、意見をもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため会議は開催していないが、行政(藤崎町役場)や包括支援センターに資料をお渡しし、運営状況を確認してもらい、意見をもらっている。	2か月に1回、家族、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、町役場、協力医へ取り組み状況等について書面で郵送している。意見や要望へフィードバックしながらサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス意見交換会(リモート)を開催したり、日頃より問題や困りごとがあれば連絡し助言をいただいている。	日頃から連絡を取り合い、相談しやすい関係が構築されている。町役場担当者と町にあるグループホームの職員で意見交換会を開催し、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除マニュアルがあり、基本的に身体拘束は行わない方針である。身体拘束に関する研修を年2回、継続的に実施している。	身体拘束等適正化のための指針、マニュアルを整備し、2か月に1回委員会を開催している。年2回研修を実施し、センサー等を活用しながら継続して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて虐待防止について繰り返し学習するとともに、日頃から不適切なケアになっていないか職員同士で確認し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護に関する研修をまだ実施していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はふせんを使用し丁寧に説明するとともに、疑問や不安な点がないか確認し、安心して入居できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には最近の状態を説明するとともに、聞きたい事や確認したい事が聞きやすい雰囲気作りに努めている。 日々の関わりの中で入居者の要望を聞き出すようにしている。	面会時の他、毎月利用料支払いの為に来訪頂いた際には、近況を報告し意見や要望を伺っている。コロナ禍の中、劳いの言葉を多くもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者が日々の業務に入り職員とともに支援しているため、日々の申し送りやその都度職員から聞き出せるようにしている。	施設長や管理者が日々の関わりの中で職員の意見を吸い上げている。又、意見や提案がしやすい雰囲気づくり、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間の工夫、残業なし、子供がいる職員がいつでも休める環境作りに取り組み、働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や日々の業務の中でよりよいケア方法を職員に伝達することで介護力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス意見交換会をリモートで開催し、各事業所と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安やストレスが増大するため、細かな配慮に努めたり、自宅での生活状況を確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何が困っていて入居相談に至ったのかについて確認したり、施設について丁寧に説明することで安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を確認し、担当ケアマネジャーと連携しながら必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事、できている事を大事にし、自信を持って生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会時間を大切に、本人及び家族の不安解消に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方にいてなかなか面会に来られない家族等とは、電話にて交流できる機会を確保している。	コロナ禍の為、直接的な交流は制限しているが、最小限の範囲で専門医への受診や自宅への外出など、家族の協力を得ながら、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し、職員間で情報を共有し、良好な関係が築けるように配慮している。トラブルが起きた際には、職員が間に入り長引かないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、いつでも相談できる体制があることを退去時に伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情、動作等の観察によって、思いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な場合は、家族等の情報を参考にその人の立場になって検討するようにしている。	暮らしの様子を観察したり、生活歴からお話を引き出し工夫をしながら、一人一人の思いや意向の把握に努めている。事業所では安全で快適な暮らしを重視している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーから今までの生活状況等を確認し、今後の生活の参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌と個別ケースにはその日の行動や変化を記載し、状態の把握に努めている。申し送りで情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認したうえで、職員間で話し合いをし、その人に合った支援方法を検討し計画を作成している。	1年に1回モニタリングを実施している。事業所独自のアセスメントツールを使用し、食事・活動・睡眠のバランスをみながら支援方法を検討し、全職員で話し合いのもと介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個別ケースに記載するとともに、必要な情報は全体の申し送りノートにも記載し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	浴槽を跨げない方は、併設デイサービスの機械浴を活用する等、ニーズに合わせて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のできている事、できる事が安全に継続できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を基本としているため、本人や家族へその旨を説明し同意を得ている。	訪問診療を基本としているが、眼科など専門医の受診は家族の協力を得て継続して頂いている。必要時は職員が同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師、訪問看護ステーションの看護師、併設デイサービスの看護師に適宜相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は迅速に介護サマリを提出するとともに、早期に退院できるよう、連携室SWと適宜連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの指針を作成し、医師や看護師と連携しながら支援できるように努めている。	入居時に重度化や終末期の支援について説明し意向を確認している。状態に応じて病院や他事業所と連携を図り、家族と話し合いをしながら方針を共有し支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時は管理者や施設長へ連絡し指示を仰ぐ体制を整えている。緊急時や事故発生時のマニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染予防のため開催できていないが、以前は年2回日中と夜間を想定した避難訓練を実施していた。その他、年1回水害時の避難訓練も実施していた。災害対策のマニュアルも作成している。	コロナ禍における避難訓練について行政へ相談し、感染予防の観点から実施していない。具体的な行動計画を含めた災害時のマニュアルが整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応は不快にならないように努め、一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。	認知症や不適切なケアに関する研修を実施している。又、日々のミーティングで管理者が気付いたことを職員へ声掛けしたり、メンタルにも配慮しながら尊重したケアが継続できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり会話できる機会が日常的にある。自己決定できるように、選択肢や問いかけに工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望にそえるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や整容には気を付け、気持ちよく生活できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日のメニューをボードに記入し、それを会話の話題にすることで、食事を楽しめるようにしている。	食事は外部の業者に委託し、事業所内では盛り付けや片づけを入居者と一緒に行っている。地域の方々からりんごなど旬な食材をお裾分けしてもらったり、家族の協力を得て好むおやつなどを持参頂きながら楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、低下している人には栄養補助食品や補食を提供している。好き嫌いを把握し、別の物と代替するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。歯磨きやうがいの声かけ等、必要な部分を職員が介助している。義歯は洗浄剤に浸して清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄チェックを作成し、排泄パターンを確認している。その人の能力に合わせて、トイレ誘導や声掛け、ポータブルトイレの設置等、工夫している。	個別の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。トイレには安全に排泄動作ができるよう手すりが多数設置されており、一人ひとりの能力に応じた排泄の自立が支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックへ排便状況を記載し、それぞれに合った下剤の服用や水分量のチェックを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴の他、足浴も週2回実施している。浴槽を跨げない方は、併設デイサービスの機械浴を活用し安全に入浴できるようにしている。	週2回の入浴と足浴が支援されている。併設のデイサービスセンターには機械浴があり、重度化に対応できる体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりの体調や習慣、状況等に応じて休息を促している。夜間の騒音や室内の明るさには配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は事業所で管理し、服薬時は職員2名で復唱しながら確認することで間違いのないように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が苦痛とならないよう、洗濯干しや洗濯畳み等、安全に気楽にできる役割を提供している。役割があることで自信を持って生活できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため外出はできていない。	コロナ感染以降、外出支援は中止している。状況を見て少しずつ再開していきたい。来春にはお花見ドライブを目標に企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その人の能力及び家族の理解がある方については少額持参してもらっている。施設ではお小遣い程度預かるのみで金銭管理は家族へお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スムーズに電話で会話できるように配慮したり、手紙は代読するなど配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度は適宜確認し快適な生活環境に努めている。明るさは照明や遮光カーテンで調整し、不快音は出さないように配慮している。施設周辺にはりんご畑が広がっているため、窓から眺めることもできる。	2ユニットの間仕切りを開放し、広々とした空間にテーブルやソファがレイアウトされている。大型の加湿器やシーリングファンが設置され、快適な温度や湿度が保たれている。又、季節感のある装飾や花が飾られ、居心地よく暮らせる工夫が各所に見られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人で過ごせたり、談話室で数名で過ごせたり、自由に居場所を確保できるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたものや馴染みの物を持ち込んでいただいたり、居心地よく生活できるよう配慮している。	馴染みのものを持参して頂くなど、その人らしさを大切に部屋づくりがされている。又、その方の状態に応じ家具の配置を変えるなど、安全で快適に過ごして頂けるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに手すりを複数設置するなど、個々の能力に合った使い方ができるように配慮している。		